

聖風 せいふう

2021.9 月号

発行責任者/院長 春原晶代 ●編集/総務課 広報係

社会福祉法人聖霊会 〒466-8633 名古屋市中区川名町56番地
聖霊病院 HOLY SPIRIT HOSPITAL Tel : 052-832-1181
<https://www.seirei-hospital.org/>

整形外科では

01

当科は2007年頃から高齢化社会で増加が予想される高齢者の骨折に主眼を置き医療体制を整えてきました。特に大腿骨近位部骨折による下肢の機能障害は大きく、術後のQOLに影響を及ぼします。そのためQOLの回復に必要な医療体制の向上に注力してきました。

回復にとって必要な手術とは、身体への影響を少なくする工夫を行い合併症や廃用を予防できることが重要と考えています。手術は廃用を予防するために受傷後24時間以内に行い、身体的機能が損なわれないように侵襲の少ない手技で行って

ます。

手術後の回復には多職種との共働が重要と考えています。看護師、理学療法士、作業療法士、薬剤師、管理栄養士、退院支援がそれぞれの立場で回復のために必要なことを考え実践していく環境が当科にはあります。

大腿骨近位部骨折の手術件数は2019年度で名古屋市内では1位、愛知県内では2位の治療実績です(DPC参加全病院内統計)。大腿骨近位部骨折の治療に特化した医療で患者さんがより回復する医療環境を実践しています。

整形外科部長 中川 明彦

手術実績掲載箇所 [トップページ>整形外科>整形外科手術実績表.pdf](#)
 URL : RL : <https://www.seirei-hospital.org/seikeigeka/>



糖尿病教室オンライン講座の配信開始

02

当院通院中や近隣の医院に通院中の糖尿病患者さんを対象に外来糖尿病教室を月1回、3ヵ月を1クールにて開催していました。今はコロナの状況が落ち着かないために患者さんに病院に来ていただいて教室を開催することができません。糖尿病について知りたいと思っておられる方が多いと思いますので、オンラインで外来糖尿病教室の講義内容を配信することとしました。現在は、内科医、看護師、薬剤師、管理栄養士、歯科衛生士、理学療法士の講義内容を配信しています。今後は臨床検査技師の講義内容を

配信する予定です。様々な職種からの情報提供ですので、ぜひご覧いただけたらと思います。コロナが落ち着いて開催できるようになりましたら、外来糖尿病教室にご参加ください。お待ちしております。

慢性疾患看護専門看護師 上野 聡子



動画掲載箇所 [トップページ>聖霊病院について>情報公開>各種教室・講座のご案内](#)
 URL : <https://www.seirei-hospital.org/aboutus/johokokai/>



「滝川学区防災安心まちづくり委員会との大規模災害時における支援協力に関する覚書」締結について

03



この締結は、東川名山町内会の一時避難場所として当院の第二駐車場の一部を提供するもので、7月2日の午後に聖霊ホールにおいて、昭和消防署所長

立会いの下で両者による締結式が行われました。これは名古屋市が推進する「防災安心まちづくり運動」の一環であり、同町内会からの「大規模災害発生時における支援協力」の要請に応えたものです。日頃から地域の方々と連携を行い、実際に災害が発生した場合に備えて具体的に準備を進める必要があると考えます。当院は、今後も地域の防災活動に寄与できるよう積極的に支援を行っていく所存です。

総務課広報係 鈴木 悠太



撮影場所 愛知県豊田市 香嵐渓 | 写真提供: 用度課課長 幾田 和男



新理事長
 就任のご挨拶
 理事長
 内海 眞

本年7月に行われた聖霊会の理事会において、平林前理事長の後を引き継ぐ新理事長に選定されました。聖霊病院には平成26年12月から非常勤内科医として外来診療を担当させていただいておりましたが、このような大役を仰せつかり身の引き締まる思いでございます。変化のスピードが速い現代において、様々な変化に対応しつつ

も聖霊会の基本理念である「愛と奉仕」の精神で医療活動を継続するにはどのような努力と心構えが必要かを絶えず問いつつ、聖霊病院の運営に携わっていかうと思っております。もとより微力な存在ではありますが、病院のために精一杯頑張る所存でございますので、どうか皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

HOT NEWS

新型コロナウイルスを取り巻く状況について

読者の皆さん、こんにちは。感染対策室の石原です。今回は、最近の新型コロナウイルス感染症(以下コロナ)の動向についてお話しします。ワクチン接種が高齢者を中心に開始され、高齢者における重症者数と死亡者数は減少傾向となり、その効果が現れつつあります。一般的に、ウイルスは体内で1日に1億~10億個複製され、1万~10万個複製に1回程度の確率で突然変異が起こり、変異株が

出現します。その中にはデルタ株のように感染性の高いものもあり、今までのウイルスに置き換わり、流行の主流となっていきます。変異株の流行に対し不安に思っておられる方も多いと思います。しかし全く別のウイルスとなるわけではなく、ワクチンの効果に関する研究結果も報告され、感染対策も今までのものと変わりありません。コロナの流行はいくつかの波を繰り返しながら終息に向かっていき

ます。終息しない感染症はありません。読者の皆様におかれましては、ワクチン接種の有無にかかわらず、引き続き手洗い・マスク着用など今までどおりの感染対策をお願いいたします。

内科診療科部長
 石原 政光





職員への新型コロナウイルスワクチンの接種が完了しました。



▲職員への接種の様子

大切なのは情報共有、そして安心の共有

今回、「職員新型コロナウイルスワクチン接種対策」の責任者をさせていただきましたので、その立場から当院での職員ワクチン接種を振り返ってみました。最初にしたことは、ワクチンに関する情報収集でした。接種したのはファイザー社製「メッセンジャー RNA ワクチン」で、3週間隔で2回接種します。人に投与するのは初めてのワクチンですから、海外文献、厚生労働省の資料等から情報を収集しました。そしてこれらの情報を関係者間で共有することが必要であると考えました。職員の中にはワクチンの効果と安全性に関して不安の声もありましたので、臨床試験等のデータをもとに、使用するワクチンと接種に関する説明書を作成しました。また、接種担当者間での情報共有のために、2月4日の第1回以来、何度かミーティングを行いました。もっとも重視したのは副反応への対応です。この時点で、国内の先行投与(国立病院機構、JCHO、労災病院)のアナフィラキシー発生率が0.02%、海外報告は0.005%で、日本人での副反応の頻度は高いとの情報でした。決して副反応で重傷者を出してはいけなと思いました。ミーティングでは、アナフィラキシー発症時のエピネフリン使用など、副反応出現時の薬剤使用法や患

者搬送の動線について検討しました。

接種希望者は、常勤・非常勤職員合わせて374人(全職員の81%)、派遣職員86人の計460人で、3グループに分けて接種計画を立てました。接種開始は、ワクチン供給と接種準備の都合から3月18日になりました。シミュレーションも行っていたので、接種会場での流れは、初回からスムーズでした。私は期間中、接種会場で副反応に対する初期対応を担当しました。アナフィラキシー症例もありましたが、会場スタッフによる副反応の早期発見、接種会場での速やかな情報共有と迅速な処置、そして救急外来でのフォローアップにて重傷者は出ませんでした。1回目のワクチン接種で副反応が出現して、2回目の接種はしなかった人もいましたが、重傷者もワクチン破損もなく、ミッションは無事終了しました。今回、事前および現場での正しい情報共有ができたと思います。そして、安堵感と達成感も共有できたのではないかと思います。



内科 副院長 藤本 正夫



新型コロナウイルス感染症に関する検査について



PCR検査機器の導入について

当院ではこちらの2種類の検査機器を導入しております。



▲全自動遺伝子検査装置 geneLEADVIII

▲全自動遺伝子解析装置 Smart Gene

新型コロナウイルス感染症(以下コロナ)の流行に伴い、PCR検査、抗原検査など聞きなれない検査を耳にするようになり、よくわからないという方もおみえになるのではないのでしょうか。そこで、コロナにかかわる検査についてお話しすることにいたします。

検査には、抗体検査・抗原検査・PCR検査の3つがあります。抗体検査は、血中にウイルスを攻撃する抗体というタンパク質があるか否かを調べるもので、過去にコロナにかかったか否かがわかりますが、確定診断には至りません。抗原検査とPCR検査は、鼻やのどにウイルスがいるかどうかを調べる

検査で、確定診断をすることができます。抗原検査は、15～30分ほどで結果が出ますが、ウイルス量が少ない場合は偽陰性となってしまうことがあります。PCR検査は、ウイルス遺伝子が存在するか否かを調べる検査で、時間はかかりますが、抗原検査では検知できないくらい少ないウイルス量でも反応が見られ、より正確な診断をすることができます。しかし、PCR検査といえども完璧な検査ではありません。コロナ患者100人に対してPCR検査を実施したとすると、30人程度は陰性と出てしまいます。従って、現場では、症状その他から総合的に判断しております。

当院では、2021年春にPCR検査機器を導入し、入院されるすべての患者さんに対してスクリーニング検査を実施させていただき「院内に持ち込まない」を基本に安心して入院していただけるよう取り組んでおります。皆様のご協力をお願いいたします。



臨床検査技術科 技師長 小島 宏

医療従事者向け新型コロナウイルスワクチン確保に奔走

私は医療従事者向けワクチン接種の事務を担当していましたが、その業務の一つに基幹病院からワクチンを受け取り、運ぶという業務がありました。ワクチンが供給される前段階では、当院は名古屋第二赤十字病院から供給されると聞いていましたが、始まってみると意外な病院からの供給になりました。ワクチン供給は大きく4回に分けて行われることになり、1回目は協立総合病院(当院から車で約45分)、2回目は江南厚生病院(高速道路を使って約1時間)からで、結局この二つの病院に合計10

回出向きワクチンを受取り、病院まで運びました。これで大半の職員のワクチン接種を終え、3回目と4回目は名古屋第二赤十字病院から残りの職員分の供給を受けました。

遠方からのワクチン供給は統一した製品番号を供給するためなどの事情があつてのことでしょうが、コロナウイルスを巡る日本の状況の一端を肌身で感じました。

総務課 課長補佐 福田 英夫

今後の新型コロナウイルスワクチンの接種予定について

8月以降の新型コロナウイルスワクチンの接種予約を7月12日から開始しました。今回は当院に受診歴のある65歳以上の方、もしくは基礎疾患をお持ちでクーポン券が配布されている方を対象としています。皆様のご希望に沿えるよう予約枠を拡大する予定でしたが、国からのコロナワクチン供給量が制限されてしまい、予約枠拡大は見送りとなってしまいました。ワクチン供給量が安定次第、追加募集等行っていくのでご理解いただきますようお願いいたします。

参考：基礎疾患とは
慢性の呼吸器疾患、慢性の心臓病(高血圧を含む)、慢性の腎臓病、慢性の肝臓病、治療中の糖尿病、血液疾患、免疫機能が低下するがんなどの疾患、ステロイドなどの内服、免疫異常に伴う神経筋疾患、染色体異常などの先天性疾患、重度心身障害、睡眠時無呼吸症候群、重い精神疾患、BMI30以上(肥満)の方など

医療情報課・医事業務課 事務次長 高取 幸江